

新年のご挨拶

支部長 野中和徳

新年 明けましておめでとうございます。

能登半島地震で始まった令和6年は、夏の異常気象、豪雨、さらなる能登半島での水害と続く自然災害、そして裏金問題などの末の総理交代、衆議院解散総選挙という内政問題、さらには円安の進行、物価の上昇など生活に関わる課題も顕在化した一年でした。国際情勢もウクライナ問題、イスラエル・パレスチナ問題、さらに北朝鮮、中国の脅威など、予断を許さない状況が続いています。このような状況については、私が申しあげるまでもないと思いますが、このような現実であるからこそ、私にとっては、東京無線支部における相互交流が、本当にありがたいものだと感じております。



おかげさまで、去年は初春の集い、総会ともに盛況のうちに開催させていただくことができ、さらに、秋の各地区ごとの懇談会も無事、開催することができました。私も神奈川地区、埼玉地区に参加させていただきました。やはり、リアルでお会いできることは本当にありがたいもので、貴重な情報交換の場であり、楽しい懇談の場でありました。

この東京無線支部はご存知のように400人を超える規模であり、4地区で約100名ごとが、幹事さんたちを中心によくまとまり、本当に所属していて安心感のある体制になっていると思います。それは、毎月の役員会での、各会員個別にまで行き届いた議論がされていることから実感されるものです。この支部としての最大の課題は、会員数の維持です。これは電友会全体の悩みでもありますが、会員数は平成12年をピークに減少傾向にあり、現状で413名という状況です。特にコロナ禍の期間においては、リアルにお互いに会うこともままならず、毎年の新規会員増が1~2名と大変低調となっております。そこで、幹事一同、知恵を出し合い、東京無線通信部時代の名簿をチェックしたり、若手の方への声掛けをしたりして、令和5年度で13名の方々に新たな会員として加入させていただきました。今年度も二けたに近づくよう努力しています。まずは、健全な活動のためにはやはり、適当な会員数維持が必須だと思いますので、会員の皆様にもぜひ、ご協力をお願いしたいと思います。

さらに、重要なのは会員になっていただいた方々が支部に入って本当に良かったと思っていただけることです。そのためには、総会や懇親会ではしっかり多くの参加をいただき、コミュニケーションし、満足していただくことが基本でありますし、さらに、日頃のサークル活動の活性化が重要だと思います。

サークル活動は、コロナ禍の時期には低調にならざるを得ませんでした。昨年度くらいから実施回数、参加者数は回復してきており、今年度については、参加者数はコロナ前と同等のレベルになると思っております。しかし、各サークルごとの状況を見ると、高齢化、会員減の影響を受け、徐々にではありますが、活動が低調になってくるという悩みがあります。そこで、このサークル活動の活性化を図ろうと、役員のみならずとも相談し、知恵を出し合おうと努力しております。その一環として私事ですが、初めて寄席サークルに参加させていただきました。私にとっては寄席に行くこと自体が新鮮な経験でしたし、その後の御徒町の飲み屋街での意見交換も楽しいものでした。また、先日は初めてバス旅行の仲間に入れていただきました。幹事の皆さんの知恵を絞られた見学地は大変興味深く、楽しい二日間を過ごすことができました。もちろん宿泊地での懇親会も楽しく盛り上がりました。各サークルに参加して思うのは、素晴らしい内容でありながら、参加者数が伸び悩んでいると感じるということです。特に、会員歴の短い方々に、活動の内容や、開催そのものが十分に届いていないのではと感じます。「サークル開催の案内を余裕を持った時期に案内する。」「毎回の開催においては、一人以上の初参加の方を募る。」などの、ちょっとしたプラスの努力が参加者の増加や若返りになるのではと思っております。

最後になりますが、今年一年の会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

